

明德の行

27の

平成20年3月25日

閉校式の反響 メール、手紙がぞくぞく

閉校式に関してお手紙をたくさんいただきました。地域の皆様へのお礼もありますので、全文をご紹介します。

3月2日（当日夜） メール：中野道弘さん 地域のドッジボール「かめれおん」指導者
閉校記念式典に出席しました。

124年の歴史に幕を下ろす式典が中川小体育館で行われ、私も出席しましたので、感想を話したいと思います。

とても、厳粛で心が引き締め、心温まるよい式典でした。心から実行委員の方々に感謝申し上げます。私は、今回の式典の中で「涙」した場面、すなわち「感動」の場면을素直に言いたいと思います。それは、子ども達が歌った「校歌など」でした。

大人たちのどんな言葉より、完全に子ども達の歌が勝っていたと思います。



3月2日（当日夜） 手紙：渡辺直子先生 旧中川小職員
拝啓 帰宅してすぐに記念誌を読みながら、閉校式の余韻に浸っておりました。

閉校式も思い出を語る会も、随所に中川ならではの工夫や温かいホスピタリティーの伝わってくる、心のこもった感動的な会でした。

また、懐かしい地域の皆様との再会も、昔くんずほぐれつ相まみえた子ども達の成長した姿も、感慨深いものがありました。

そして、なんとと言っても長時間礼儀正しい参加態度で、真剣にかつ生き生きと精一杯の表現をすることのできる中川の子ども達の姿に、先生方と地域の力、「学校力」を感じました。改めて、自分もこの共同体の一員であったこと、そこで微力ながらも精一杯働かせていただいたことの喜びと誇りと感謝の念を新たにいたしました。

中川でやったこと、やれたこと、させていただいたことを改めてかみしめ、これからの自分の持ち場できちんと生かしていくことが、明德校出身者の一人としての誇りと責任であると思わせられました。

ここまでの道のりは並大抵のことではなかったことと思います。僭越ながら、校長先生、教頭先生始め、役員の皆様、職員の皆様のご苦勞に心からのねぎらいと感謝の気持ちを贈らせていただきます。本当にありがとうございました。

これからも校舎の備品の引っ越しや残務の整理など学年末と重なり、多忙を極めることと思いますが、お体に気をつけてお過ごしください。 敬具



3月4日（翌々日） 葉書：柳川勝郎先生 第16代校長
（美しい和紙にハハコグサの押し花付きのハガキに毛筆で書いてくださいました）

前略 中川小学校の閉校式、大変ご苦勞様でした。

校長先生を中心にして全職員一体となり、全校児童一人ひとりに式への参加と喜びを感得させようとの先生方の意図がくみとれ、感動的でした。児童もその期待に応えた立派な式でした。本当にご苦勞様でした。

3月3日（翌日） メール：織田一さん 向中条
お疲れ様でした。閉校式



春は名のみ・・・しかし本格的な春の訪れはもうそこまで来ているようです。

先日の閉校式は本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。当初、欠席の予定でしたが、今年の年賀状に『閉校式で逢えることを楽しみにしています』とのご返事をいただき、出席いたしました。本当に出席したことを、改めて「良かったなー」と思っております。式では、最後まで泣かないでしっかり胸に刻むことにしようと思っただけの出席でしたが、最後の皆での校歌合唱では、溢れ出る涙は、止めることが出来ませんでした。それにしても、生徒さんの大きな口での「ピリブ」は、感動でした。6年生のプレゼンテーション「学校のあゆみ」、3, 4, 5年生による校歌合唱、本当に職員の皆様のご努力が、如何に大変だったか窺い知ることができました。ありがとうございました。

3月は、異動、卒業式等でお忙しい毎日かと思いますが、どうぞお体を大切にされ、残された数少ない日々を過ごされます事をお祈り申し上げます。

3月4日（翌々日） メール：織田一さん

追伸

おはようございます。さわやかにご出勤のことと思います。昨日のメールで一つ書き忘れたことを思い出し、追伸として送らせていただきました。実は、思い出の会の席で女性お二方に一生懸命接待して頂き、楽しい美味しいお酒をいっぱいいただきながら、帰りに何のご挨拶をすることなく帰路についてしまったことを、深く反省しております。先生の方から、もし伝言をして頂けたら嬉しく思います。本当に御世話になりました。

特に、大滝教育長様、前村長佐藤様、前々村長高橋様、そして歴代校長の畠野様、中村様、品田様、布川様、元職員の杉原様 e t c と久しくお話出来たこと、お話は出来なかつたが顔だけでも拝見できた 神田様、大沼様、秦野様等々、嬉しかったです。ありがとうございました。帰りは、農道を校歌を歌いながら帰ってきました。

帰宅は、午前3時50分でした。

3月3日（翌日） 手紙：中野真弓さん 元教育振興会副会長 謹啓 突然お手紙を差し上げます失礼をお許し下さい。

昨日の中川小学校閉校記念式典に出席いたしました向中条の中野真弓でございます。先ずは、お礼と感謝の気持ちを申し上げたくお手紙いたしました。

児童発表、6年生のプレゼンテーションと校歌の楽器演奏、子ども達はおじいさん、おばあさんのお話を交えながら、話してくれました。私も、子どもが中川小に御世話になった当時を思い出し、なつかしくなりました。

校歌の演奏では、6年生15名でありながら、N響オーケストラが演奏しているような気分になり、気持ちよく校歌を歌うことができました。

3, 4, 5年生による校歌の2部合唱は、少人数で倍以上の子ども達が歌っているかと思うほど素晴らしく聞こえました。

全校児童による「ピリブ」は、涙がでました。（もちろん感動の涙です）

さっぱりお役に立てなかつた役職に恐縮しながら参加した閉校式、幸いお天気に恵まれ「今日はいい式典だった。やっぱり出席してよかった」

「小さな学校が大きく見えた」日でございます。

子ども達にとりましては、一生忘れることができない記念日となったことでしょう。

校長先生はじめ、諸先生方の御指導のおかげと感謝申し上げます。ありがとうございました。

追伸

校長先生にお願いがございます。大好きな中川小学校校歌のピアノ演奏用の楽譜をコピーしていただけないでしょうか。娘からお願いしてほしいと頼まれました。

我が家の93歳のおばあちゃん、今も中川小の校歌をはっきりと歌います。



家族でピアノ伴奏で歌えたら最高と考えております。

大変お忙しい中、かってなお願いで申し訳ございません。書中をもって、お願い申し上げます。封筒を同封させていただきました。

3月5日 手紙：喜多野昭先生 学校医

中川小 教職員の皆様

閉校記念式典行事は、この日を寿ぐかのように天候にも恵まれ、盛況裡に無事終了しましたが、本当にいろいろとご苦労様でした。

私の卒業した小学校は、朝鮮 京城（韓国 Seoul）で日本の敗戦と共に消滅。戦後続いた同窓会も昨年で幕を閉じ、淋しい想いでしたが、これと重ね合わせ中川小閉校には、**校歌を斉唱し乍ら涙が流れました。**

それに、**私に対しての感謝状と記念品、何物にも勝る心温まるもので、早速待合室に飾り、地区の皆様にご観ていただいております。本当に感謝、感謝あるのみです。**

年頭の「明徳の灯」に校長が提唱された「ありがとう」の大切な言葉、これをタイトルにした小冊子を御礼と記念にお贈りします。（「美しい地球を子供たちに」他 高木善之著作）では、皆様のご健勝を祈りつつ！



3月9日 葉書：長谷川稔先生 旧職員

風花が舞い、はるの近いことを感じます今日この頃、貴職をはじめ職員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、先日の閉校式には、大変御世話になりました。ありがとうございました。

校長先生の感謝に満ちた閉校のおことば、**子どもたちの校歌を歌う真剣な眼差し、教職員・保護者・地域が一体となった式典と思い出を語る会、これらのいくつにも感動し、心温かくなりました。**とりわけ当時の卒業生に会えたことは、望外の喜びでした。旧交を温めることができ、改めて深く感謝いたします。

皆様の一層のご活躍を祈念いたします。

（注）長谷川稔先生が出席されることを知って「それなら私も出席したい」と申し込まれた方が何人もおられました。



3月5日 手紙：本間吉郎先生 孔版画家他、記念誌題字「明徳の灯」揮毫

大関先生、何かとありがとうございました。閉校のさびしさはございまして、最後の締めを見事に全うなさいました校長としましての並々ならぬ感慨は、ひとしおでありましたでしょう。

お疲れはございましたでしょうが、参加できました者といたしましては、得難い感動に満たされた1日でございました。

児童たちの、まことに素直にいきいきとした姿も忘れ難く、久方振りに3番までしみじみと唱うことのできた「北風すさび・・・」でもありました。

昨秋お訪ねいたしました折には、かの黒っぽい実をつけていたイボタノキ、白花の満開の景を想描しつつ、お会いした席ですぐにでも先生が「このイボタノキ・・・」と話をされたことに、この大きな記念式をとりしきっておられつつも、なんと・・・大好きな花に触れることのできる大関先生のホンワカとした大きなゆとりを感じ入った次第でした。

残り少ない3月末の真の閉校の日まで、先生には児童を中心に各先生共々に充実した時間をお過ごしになられますようにと願っております。

ああ、この学校が、この校舎が、わが母校だったのだと、今回しみじみと思いを胸に刻むことができました。母校の最後を導き守ってくださった先生との出会い、イボタノキへの感謝を忘れずに、今後も努めてまいります。ありがとうございました。



もろもろに対し、厚くお礼申し上げます。

(注)本間吉郎先生は、加治川中学校の校歌の作詞者でいらっしゃいます。昨秋、新加治川小学校の校歌の作詞を依頼され、その取材のために来校された折、中川小校長室の傍に植えてあったイボタノキのことで話が弾んだことがありました。

3月7日 手紙：中村直蔵先生 第22代校長

(地模様のある和紙の巻紙に毛筆の美しい字でしたためられています。冠帽印と落款、2種類の遊印の朱印が行間に配され、表具して飾っておきたいようなお手紙です。)

水ぬるむ季節となり、日ごとに暖かさを感じる候となりました。

このたび中川小学校閉校式に参列させていたたき、感動、感激の一日でございました。なによりの感動は、68人の子供たちがきりっとした態度とはきはきしたことばで堂々としていたこととあります。こんな生き生きした子供たちを育てられた校長先生はじめ全職員の皆様のご指導に頭が下がるばかりでした。

「自学する力」「思いやる心」「やりぬく力」の教育目標実現のため、日常の教育活動が全校のすみずみにまで行き渡っています。心がゆさぶられる思いがいたしました。

「教育荒廃」と叫ばれ危惧されている昨今、中川小の教育にふれ、「教育の原点は中川小にあり」という感を強くもちました。中川小学校は、どこを切っても温かく熱い血がほとばしる学校です。全職員一致協力した教育実践が、子供の力を引き上げてくれます。

記念誌「明德の灯」を読ませていただき、涙があふれました。こんな立派な記念誌、私の一生の宝物です。

本当に素晴らしい中川小学校に勤めさせていただき、しかも教職生活最後の学校を中川小学校で励むことのできたしあわせをかみしめております。

大関校長先生はじめ職員の皆様のご活躍とご健康を祈念し、お礼のごあいさつといたします。心からありがとうございました。

ご多忙中ですが、3月中に1回学校を訪問させていただきたく、日程をおさしくりくださいますようお願い申し上げます。

3月11日 手紙：石井浩二さん 同窓生 神奈川県川崎市在住

謹啓 春寒ゆるみ、春色相催しの今日この頃、閉校記念事業実行委員会の諸賢のおかれましては、ますますご健祥のこととお慶び申し上げます。

諸賢のご盡力に敬服いたし、その集大成まことに立派な記念誌をお送りいただき、衷心より厚く御礼申し上げる次第でございます。

閉校と承り、惜別の念や切なるものがありますが、折しげくこの記念誌を拝察しながら「公明な徳性」に想いを致し、学び舎を心に描きつづけたい所存です。

「明德の学び舎 歴史感深し
八十路有半 想いも新た」

晩節八十五年、処世の原点に立ち返り、感慨ひとしおのものがあります。即興の一首で失礼いたします。学校職員の方々と実行委員会の諸賢の心情やいかにと御推察申し上げます。改めて、皆様のご健祥、ご多幸をお祈り申し上げます。 草々

